

## LPガスCP速報(2021年2月積)

### 1. 2月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **605**  $\text{ドル}$  (前月比+55  $\text{ドル}$ )

ブタン **585**  $\text{ドル}$  (前月比+55  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が大幅続騰し昨年2月以来の高値となるなか、LPガス需給は、気温低下で暖房需要が増加、アジアの引き合いが強まる一方、サウジの減産が懸念されたが、後半にはパナマ運河の渋滞による遅延カーゴの到着見込みで、需給タイト感は緩和した。極東CFR市況は、第1週にはプロパン675  $\text{ドル}$ 、ブタン645  $\text{ドル}$ まで上昇したが、第3週にはフレートも急落しプロパンは555  $\text{ドル}$ まで軟化した。FOB市況も冬場のアジアの堅調な需要と米国王の遅延で高騰したCP先物2月限は、第3週にはプロパンも600  $\text{ドル}$ を割り込んだ。

全米プロパンは、輸出が堅調、需要も好調で、全米プロパン在庫が大幅に減少し前年比75%まで低下、5年平均レンジのボトムに(グラフ②)。米モンベルビュープロパンスポット価格は原油市況の上昇と低水準在庫で急騰、前月比115  $\text{ドル}$ 上昇の450  $\text{ドル/トン}$ どころ(グラフ①)。

フレート市況は、新型コロナ規制の影響などでパナマ運河が渋滞、第2週まで100  $\text{ドル}$ 超の高騰が続いたが、サウジの減産、キャンセルなどで船舶需給が緩和し軟化した。

ナフサは原油価格に連動して大幅続騰し旬には500  $\text{ドル}$ を突破、20日には525  $\text{ドル}$ に達した。月間平均は513  $\text{ドル}$ どころで、前月比70  $\text{ドル}$ の上昇。

バンカーオイルも原油市況に追従して上昇した。シンガポールIFO380は月間平均で前月比25  $\text{ドル}$ 高の347  $\text{ドル}$ どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同34  $\text{ドル}$ 上昇の461  $\text{ドル}$ どころ、両油種の格差は115  $\text{ドル}$ に拡大した。

2月CPは前年同月比プロパン100  $\text{ドル}$ 、ブタン40  $\text{ドル}$ それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン2、ブタン1ポイントそれぞれ下落、前年同月比ではプロパン43ポイント、ブタン33ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	118.7	102.9	69.3		
CP先物指標:P	610	620	595		
CP先物指標:B	570	580	560		

#### ② 原油市況等

原油市況をみると、1月WTIは47  $\text{ドル}$ 台でスタート、14日には53.57  $\text{ドル}$ と昨年2月以来の高値を付けた。OPECプラスは2~3月にサウジが100万b/dの自主減産を実施することで、実質減産強化を図った形。政権移行で混乱した米国もバイデン政権が大型景気対策を打ち出し、世界各国でワクチン接種が始まり経済正常化への期待から米株価は過去最高を更新、原油市況も需要回復期待から続騰した。米石油リグ稼働数は5月水準まで増加(前年比44%)したが、原油生産量は1,100万b/d前後で横這い。製油所稼働率は低水準が続いているものの、輸入減と輸出増で全原油米在庫は高水準ながら減少が続いている。ただ、石油需要は新型コロナによるロックダウンなど制限措置強化で低迷、ガソリン、留出油の回復ペースは鈍く、ジェット燃料は前年比3割前後の減少が続いている。

一方、CFTC発表の大口投機玉の買越残高は19日時点では509千枚、前月末から2千枚減少、買い建玉は66.5万枚で前月末10千枚増加となった。株価を中心として金融市場はバブル化、WTIの総取組高は前月末比22万枚増加の234万枚と昨年4月以来の高水準。

○1月積みアラビアン・ライト(1月1~31日までの想定)は55.10  $\text{ドル}$ (前月比+5.69  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン451.76  $\text{ドル/トン}$  ブタン445.57  $\text{ドル/トン}$

AL比 プロパン133.92% ブタン131.29%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

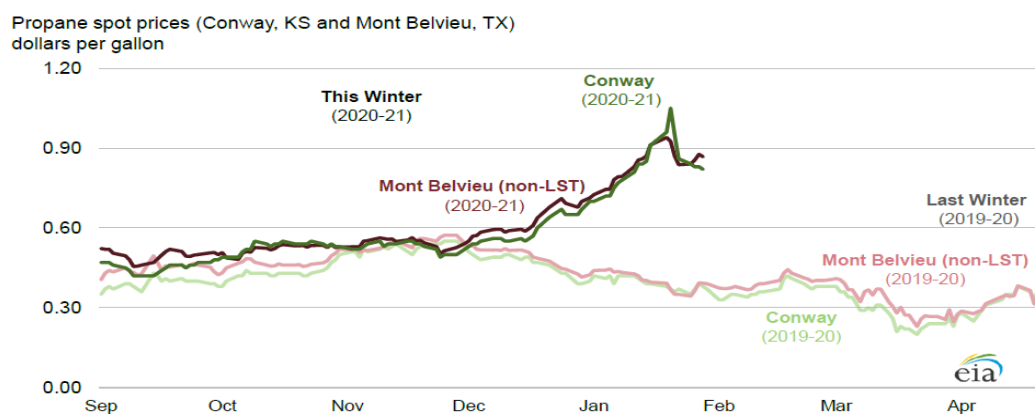
## 2. 2021年2月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	104.57	66,900	64,800	66,700	+7,900	+6,300	+9,200
②末日締め	104.69	60,500	58,400	59,800	+8,100	+6,500	+9,300

\*TTS平均について、①が12月21日～1月20日、②1月1～31日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは1月28日までの価格を基にEINで試算（450ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米MBプロパンスポット価格推移



Source: FIA Bloomberg data through January 26, 2021

### ②全米及びメキシコ湾岸（PADD3）プロパン在庫推移

